

月刊 アカサス ニュース

第48号 2000(平成12年).7

8月号は休刊します。

「アカサス」とは、古代ギリシャ・ローマに由来し、金沢大学の校章にも使われている植物の名称(和名「ハアザミ」)です。

トップニュース Top News

新たに12人に名誉教授の称号授与

6月26日、金沢市内のホテルで、平成12年4月1日付けで名誉教授になられた12人の方々の称号記授与式が行われた。

なお、本学の名誉教授は、今回の12人を加え、219人となった。【6ページに関連記事】

林学長から称号記を授与される新名誉教授
= 金沢市内のホテルで



新名誉教授の記念撮影(写真内丸枠は、授与式を欠席された久野名誉教授)
= 金沢市内のホテルで

環境保全センターが
「20周年記念式典・記念講演会」を挙行

6月16日、工学部秀峯会館で、環境保全センター20周年記念式典及び記念講演会が挙行され、市民を含めて約430人が参加し、会場が満席となった。

同式典では、元井正敏センター長のあいさつに続き、林勇二郎学長、平井英二初代センター長から祝辞があり、式を閉じた。

また、記念講演会では、京都大学環境保全センター長高月紘教授、本学理学部中村浩二教授、同薬学部早川和一教授が、それぞれ専門の立場から講演し、環境問題について関心を喚起した。

【2～3ページに関連記事】



あいさつをする元井センター長
= 工学部秀峯会館で





テーマ「環境について」

廃棄物を安易に捨てない という倫理観を



環境保全センターが設置されてから20年、盛大に記念式典と講演会ができたことをうれしく思います。この間、問題がまったくなかったわけではありませんが、大学の環境を守りながら研究・教育を支援するという役割を果たしてきました。ここで、新たに「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（通称「PRTR法」）」が制定され、平成13年度から記録・報告が義務付けられました。この対応について環境マネジメント委員会で検討をはじめます。

環境保全について、最も大切なことは、大学の構成員としての自覚と倫理観をもって処理することだと思います。当センターの将来は、廃棄物処理の研究拠点として、大学のみならず地域社会に貢献したいと思っています。

（元井正敏環境保全センター長・談）

「環境保全センター20周年記念講演会」紹介

「環境問題とライフスタイル」



京都大学環境保全センター長
教授 高月 紘
日本人が捨てるゴミと、農水産物の出来高とほぼ同じ。環境保護は消費を抑えるというライフスタイルしかない、と自作のマンガで説明。

「角間の里山の環境保全と里山自然学校」



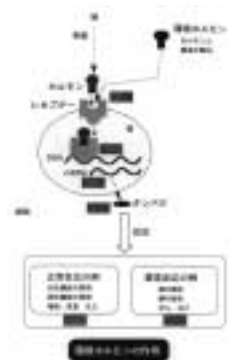
金沢大学理学部教授 中村浩二
（「角間の里山自然学校」代表）

総合移転工事が行われている角間において、残された自然「里山」が市民の生涯学習の場にも提供されていること、さらに教育と研究に活用されていることなど、たくさんの写真で説明。

「身のまわりの環境ホルモン」



金沢大学薬学部教授 早川和一
身の回りには様々な環境ホルモンがあり、妊婦や赤ちゃんは注意が必要なこと、環境ホルモンは本当のホルモンと構造が似ているためにかく乱を起こすことを図解で説明。



目次

2000(平成12)年7月 第48号

【1頁】トップニュース

新たに12人に名誉教授の称号を授与
環境保全センターが「20周年記念式典・記念講演会」を挙

【2・3頁】テーマ「環境について」

「環境保全センター20周年記念講演会」紹介
附属小学校の環境学習「今年もケナフを育てます」
全学一斉に、春の「キャンパス美化」
看護婦の橋本さん「第3回エコライフびわ湖賞」最優秀賞に輝く

【4～7頁】巻頭言・6月の主なできごと 巻頭言 / 日本学術振興会研究者養成・国際事業説明会 / 学術講演会「21世紀の大学とその社会的責任」 / 留学生交流研究協議会 / 国立大学図書館協議会 / 平成12年度新任教官説明会 / 国家公務員倫理法等説明会 / 名誉教授との懇談会 / 石川地区官公庁連絡会 / フルブライト・メモリアル基金アメリカ人教育者訪問団 / 市民公開講座 / 大学公開講座 / 平成12年度大学等地域開放特別事業 / 県立七尾高等学校と懇談会

【8・9頁】教育『いま』 第一期生が新校舎で授業 / 「御遺骨返還式」及び「文部大臣感謝状伝達式」 / 医学博士学位記授与式 / 理学部 附属学校「出前授業」 / 附属幼稚園で「教育研究発表会」

【10頁】できごと / お知らせ 訃報 / 臨海実験所を視察 / 「大学改革と総務部の役割について」を講話 / 「心は南極」今から楽しみ / 「金沢大学概要」が完成

【11頁】学長室・副学長室から 学長あいさつ / 副学長あいさつ / 本学へのお客さま

【12頁】伝統の「百万石まつり」に連続参加 / キャンパス点描・がん研究所附属病院の庭園 / 編集後記



テーマ「環境について」

附属小学校の環境学習 「今年もケナフを育てます」

「総合的な学習」の環境領域の一つとして、6年生が6月6日にケナフの苗を花壇に植えた。平成8年から栽培を続け、今年で3年目となった。花は染料にし、幹は秋の収穫のあと、紙にして大風づくりやそのまま炭にするなどの計画をしている。



ケナフの苗を観察する児童
= 教育学部附属小学校で

ケナフは、木材繊維に代わる紙の原料として森林保護の役割を果たすだけではなく、炭酸ガスを多量に吸収し、地球温暖化の防止にもつながると考えられている。

= 実施日 = 角間キャンパス

事務局				文・法・経済学部	教育学部	理学部
総務部	経理部	学生部	施設部	6/30	6/19	6/12～20
6/15	6/12	6/16	6/20			



事務局玄関前



文学部・法学部・経済学部の周辺

全学一斉に、 春の「キャンパス美化」

6月12日から16日までの一週間で「キャンパス美化週間」と定め、この期間を中心に各部局で除草や清掃を行った。いくつかの部局では、部局長をはじめ、学生や大学院生も参加した。この「キャンパス美化週間」は、秋にも実施される予定。

= 実施日 = 宝町キャンパス・鶴間キャンパス

小立野キャンパス

平和町キャンパス

医学部			薬学部	がん研究所
医学科	保健学科	附属病院		
6/15	6/15～16	6/13	6/20	5/26～27

工学部
5/22～6/2

附属学校
6/16



医学部附属病院(写真中央は河崎一夫病院長)



辰口共同研究センター周辺

看護婦の橋本さん 「第3回エコライフびわ湖賞」 最優秀賞に輝く



滋賀県と日本経済新聞社が主催する「第3回エコライフびわ湖賞」のアイデア部門最優秀賞に医学部附属病院の橋本敦子さん=写真=が選ばれた。

「エコライフびわ湖賞」は平成9年6月に創設され、第3回目の今年度は、「捨てる？」をテーマとして募集された。

橋本さんは「捨てる前に、ちょっとした気づかいで再利用しようという提案。普及させて身近なことから環境につくしていきたい」と語った。



巻頭言

「祭りの後」に考える



大学教育開放センター長
(キャンパス2050検討グループ座長)

宮下 孝晴
教育学部教授

昨年は金沢大学創立50周年を記念する多くのイベントが実施されたこともあって、地域における金沢大学の存在はこれまでになくクローズアップされたように思う。しかし、それはあくまでも「これまでに比べて」という相対的な印象であって、「現実」は私たちが自負するほどでないのかもしれない。それに金沢大学の存在感は創立50周年記念という半世紀に一度のエポックが図らずも与えてくれた一過性の幸運であったという、ちょっと冷ややかな判断も可能である。とすれば、一連の記念行事の終わった今こそ、金沢大学の真の姿勢が浮き彫りにされることになる。現在はまさに「祭りの後」(ポスト・フェストゥム)の状況にあり、地域に開かれた金沢大学の存在をアピールするエキサイティングなピークは過ぎたかに見える。しかし、その身を独法化の奔流のただ中に置いていることを考えれば、今後とも「祭りのさなか」(イントラ・フェストゥム)のような果敢な取り組みがどうしても必要ではないだろうか。

また、金沢大学が地域から孤立して存続できないことは当然なのだが、学外から見るほど金沢大学の実態は一体化したものでないところに、私たちは二重の問題を抱えている。

昨年、大学教育開放センターの企画したテレビ公開講座「知の集積回路 プロジェクト金沢」では、地域の問題を学部の垣根を超えた33人の教官が担当して話題を呼んだ。この実現にあたっては1997年度版「研究者総覧」がなければ、ちょっと手に負えなかったかもしれない。「金沢」というテーマと何らかの関わりをもって研究している本学の教官をリストアップするにあたって、私は何度も「研究者総覧」に検索のキーワードをかけた。といっても、まだデータベース化されていたわけではないから、それは何度も「研究者総覧」のページをめくってはマーキングし、必要に応じて各研究室等のホームページをのぞくという手作業であった。そして、そこから浮上した研究者リストをさらに各学部の代表で構成されているセンター委員会で討議し、調整したわけだが、金沢大学を「知の集積回路」と命名しながらも、その回路の不完全さを思い知らされた仕事であった。一枚のCD-ROM版「研究者総覧」があればと、どんなに歯がゆい思いをしたかを想像願いたい。目下、その製作が進行中というCD-ROM版「研究者総覧」の完成を楽しみに待つことにしよう。

「平成12年度日本学術振興会研究者養成・国際事業説明会」が開かれる



説明をする貴志課長
= 大学会館で

6月21日、大学会館で、「平成12年度日本学術振興会研究者養成・国際事業説明会」が開かれ、教職員約80人が出席した。講師は、同振興会国際事業部の貴志辰夫国際研究協力課長、石川幸秀人物交流課長で、2時間にわたって外国研究者招へい事業や研究者派遣事業について説明した。

説明会に、林勇二郎学長があいさつをした。

学術講演会開催される 「21世紀の大学とその社会的責任」

6月24日、金沢市観光会館で、学術講演会(日本学術会議中部地区会議主催、金沢大学共催)が開催された。

林勇二郎学長のあいさつに続き、日本学術会議会員の3教授による講演が行われた。

講演に対する質疑では、大学改革の現状と国立大学の法人化に関するものが多く出された。

講演会には、金沢大学を始め、県内の国公立大学の教職員を中心に170人が出席した。



講演会会場風景
= 金沢市観光会館で



留学生交流研究協議会を開催

6月15日、16日の両日にわたって、金沢市内のホテルで、「平成12年度留学生交流研究協議会（中部・近畿地区）（文部省・金沢大学共催）」が開催され、400余人が参加した。

この協議会は毎年開催されており、大学等の教職員、関係団体及び関係省庁の職員で、大学、高専等における留学生受入れ体制を整備、充実するための諸問題を協議するものである。

1日目は、畑安次副学長、荒木亨文部省学術国際局留学生課課長補佐からのあいさつに続き、午後から分科会



あいさつをする
荒木亨文部省学
術国際局留学生
課課長補佐
＝金沢市内のホ
テルで

があり、活発な意見交換が行われた。

2日目は、洪来輪拓殖大学助教授の特別講演、全体会議及び各分科会からの報告会が行われた。

続いて、小椋史朗文部省留学生課課長補佐及び林勇二郎学長があいさつをし、2日間の協議会を終えた。

第47回国立大学図書館協議会総会 － 本学附属図書館が当番で開催 －



開会式であいさつする落合会長（写真中央は林学長、右端は和田図書館長）
＝金沢市文化ホールで

6月28日、29日の両日にわたり、金沢市文化ホールで、第47回国立大学図書館協議会総会が開催された。全国の国立大学図書館等から館長・事務部長・課長ら約300人が一堂に会し、図書館の財政問題、電子ジャーナルの整備、ドキュメントデリバリーの推進等について活発な討議を行った。また、「大学図書館機能の新たな展開」をテーマにした研究集会（座長：和田敬四郎附属図書館長）では、事例発表（7件）と海外派遣報告（2件）が行われた。

なお、開会式では落合卓四郎会長（東京大学附属図書館長）、林勇二郎学長及び和田館長からあいさつがあった。

「平成12年度新任教官説明会」を実施



説明を聴く新任教官
＝事務局会議室で

6月21日、事務局会議室において、新任教官を対象とした説明会が実施された。

午前中は、林勇二郎学長の講話のあと、畑安次副学長から教育課程について、花岡美代次副学長から学術研究の体制について、水上修一事務局長から管理運営について、説明があった。

午後からは、総務、経理、施設の各部（課）長が担当した。

今回は、前回の説明会以降に採用又は転入した教官のうち、34人が出席した。

「国家公務員倫理法等説明会」を開く



国家公務員倫理法
等を説明する森口
武雄人事課長
＝医学部記念館で

6月27日、医学部記念館で2度目の国家公務員倫理法等説明会を開いた。今回は、主として宝町地区（医学部、医学部附属病院、薬学部及びがん研究所）の教官、薬剤師、看護婦、技師等を対象に実施した。

会場は、140人を超える参加者で超満員となり、質疑応答では、予定時間を20分以上も超える説明会となった。



説明会風景
＝医学部記念館で



「名誉教授との懇談会」を催す

6月26日、「新名誉教授称号記授与式」【1頁に記載】に続き「名誉教授との懇談会」が金沢市内のホテルで行われた。

林勇二郎学長はあいさつの中で、「大学改革，独立法人化など大学を取り巻く情勢は厳しいが，本学の発展のた

めに全力を尽くしたいので助言と御指導をお願いしたい」と述べた。

懇談会には，新名誉教授を含め，名誉教授76人，本学関係者30人，計106人が出席し，盛会のうちに終了した。



懇談する学長と名誉教授(写真左から，青野茂行元学長，林勇二郎学長，金子曾政元学長及び岡田晃前学長)



新名誉教授を代表してあいさつする渡邊洋宇名誉教授



乾杯の音頭をとる石田保之名誉教授

最年長(満90歳)の小野一良名誉教授(写真左)と榎場重正名誉教授

「石川地区官公庁連絡会」を開催

6月8日，本学の当番で，石川県内にある法務省，大蔵省，運輸省など各省庁38機関の長で組織する「石川地区官公庁連絡会」の月例会が開催され，23機関の長が出席した。

「金沢大学広報ビデオ」を視聴したあと，林勇二郎学長が本学の概要と課題等の説明を行った。これに基づき，本学出身の教授の占める割合，学生の気質，「独法化」，民間等他研究機関との連携など，多くの質疑応答と活発な意見交換が行われた。



金沢大学の概要を説明する林学長(写真左)と水上修一事務局長＝事務局大会議室で

フルブライト・メモリアル基金 アメリカ人教育者訪問団を迎える

6月27日，フルブライト・メモリアル基金アメリカ人教育者訪問団の一行が，本学を訪問した。



全体会議風景
＝教育学部会議室で

林勇二郎学長の歓迎のあいさつに続き，杉本幹博教育学部長から，この訪問団の来訪が今回で4年目を迎えたこと，この機会に，教育と文化の交流がより盛んになるよう希望する旨のあいさつがあった。

「金沢大学広報ビデオ(英語版)」で大学紹介を行った後，本学側出席者との間で全体会議が行われ，活発な質疑応答があった。

本会議終了後，学内の施設見学を行った。



市民公開講座

「市民のための放射能・放射線の話」

6月11日、金沢市内の県文教会館で、市民公開講座「市民のための放射能・放射線の話」が開催（本学放射性同位元素委員会・アイソトープ総合センター主催、石川県及び金沢市などが後援）され、市民など約300人が聴講した。

花岡美代次副学長の開会あいさつのあと、「臨界事故から何を学ぶか」と「医療における放射能・放射線の役割」の2つのパネルディスカッションが行われた。

「臨界事故」では、主婦のパネラーは、実施したアンケートをもとに、主婦の意識を話題にした。また、新聞社の論説委員は、ジャーナリストの立場から、「日本のモノづくりへの警告」として、臨界事故に限らず、コンクリート崩落事故など、広い範囲での技術について問題提起を行った。

「医療における役割」については、放射線が医療の現場で果たしている重要な役割についての紹介と、医療の将来について説明された。



「臨界事故から何を学ぶか」についてディスカッションをするパネラー



「医療における放射能・放射線の役割」についてディスカッションをするパネラー

大学教育開放センターで

大学公開講座はじまる

6月17日、大学教育開放センターで本年度の大学公開講座がスタートした。その最初の講座は「楽しい地球学」で、約50人が受講した。

本年度の公開講座は8講座と、学部共催講座4講座を開講の予定。専門的な学習機会の提供から、学習者の生きがいや自己向上に寄与し受講者の拡がり期待される。



聴講する受講生
＝大学教育開放センターで

理学部附属臨海実験所で

「大学等地域開放特別事業」が行われる

6月24日、25日の両日にわたって、理学部附属臨海実験所で、「平成12年度大学等地域開放特別事業」が行われた。

この事業には、珠洲市及び珠洲郡内浦町の親子30人が参加し、魚の肝臓から遺伝子を取り出す方法を体験した。



魚の肝臓から遺伝子を取り出している子どもたち
＝理学部附属臨海実験所（内浦町小木）で

理学部が県立高等学校と連携

理学部は、理数科教育の振興を目的として県立3高校（小松高校、金沢泉丘高校、七尾高校）及び県教育センターと、教育研究連携委員会を設けた。



樋渡保秋学部長、笹山雄一教授、田中稔雄事務長と西村孝之七尾高等学校長、教諭らとの懇談風景
＝6月14日、県立七尾高等学校（七尾市内）で



第1期生が新校舎で授業...医学系研究科保健学専攻（修士課程）

平成12年4月に設置された医学系研究科保健学専攻（修士課程）では、77人の第1期生が入学した。

また、校舎の新設及び既設の1号館・2号館の耐震補強・外壁塗装など全面改装が行われ、校舎全体が一新された。



医学部保健学科の学生とともに、保健学専攻の大学院生もフレッシュな気分で勉学・研究に励んでいる。

保健学専攻1期生 77名(46)
内訳1 本学出身者24(15)
他大学出身者55(31)
内訳2 社会人からの入学者46(25)
()は女子で内数

新築された3号館(3階建)(写真右端)と耐震補強、外壁塗装などの改修が行われた既設の1号館(写真左端)



保健学科1号館玄関に、看板を掲げる永川宅和保健学専攻長、中村信一医学系研究科長、南茂樹医学部事務長(写真右から)

医学系研究科保健学専攻修士課程について

大学院医学系研究科保健学専攻長 永川宅和

このたび、念願であった保健学専攻の修士課程が発足することになった。本学は本邦における保健学科のなかでも最も多くの専攻を有しており、保健、医療分野に関する学問領域の研究を推進するには大変適した環境にあり、保健学を志向する研究者の今後の研究成果が現代の社会的ニーズに応えて広く保健医療に寄与できることを望んでいる。今後はより高度な保健学の教育、研究を志向して、博士課程設置を目指したい。

建物新築・改修概要

新築建物

保健学科3号館

鉄筋コンクリート造地上4階延べ面積4,500m²

鉄筋コンクリート造地上3階延べ面積3,300m²

既設建物改修

保健学科1号館：耐震補強、屋上防水、外壁塗装、便所全面改修、外部階段改築

保健学科2号館、福利施設：屋上防水、外壁塗装
体育館屋上防水改修

その他：自転車置場の増設及び既設置場のペンキ塗り替え、敷地境界フェンス取替え

3号館コンピュータ室で実習する学生たち



ゼミ風景



医学部

「御遺骨返還式」及び「文部大臣感謝状伝達式」を挙行

6月17日、医学部十全講堂で、献体者に対する「御遺骨返還式」及び「文部大臣感謝状伝達式」並びに「第98回合同慰霊祭」が行われ、約500人が列席した。



追悼と感謝の言葉を述べる中村学部長
= 医学部十全講堂で

式では、全員による黙とうと献花が行われ、医学教育発展のために献体された30人の冥福を祈った。続いて中村信一医学部長から遺族一人一人に遺骨が返還され、文部大臣感謝状が伝達された。

中村学部長は、「献体の真の目的を常に心に留め、社会の要請に応え得る医師と医学者を養成し、医学の進歩発展に貢献すべく、なお一層の努力をする」と述べ、学生代表は、「尊い命をあずかる医師とは何か。人の善意とは何かを学ぶ機会を与えてくれた」と感謝の言葉を述べ、努力を怠らないことを誓った。

このあと、合同慰霊祭が行われ、病理解剖者を含めた201人の方々の霊を偲んだ。

医学博士

「学位記授与式」を挙行

6月27日、医学部記念館で、医学博士の学位記授与式が挙行された。今回の授与者は、博士課程修了者41人、論文審査合格者17人の計58人。



「学位記授与式」であいさつする林勇二郎学長
= 医学部記念館で

理学部 附属学校「出前授業」

理学部教官が附属小学校で「出前授業」を行った。

・「角間の里山」は、4年生の授業で、生物学科の教官、大学院生、学生が指導した。



捕らえたへびに歓声をあげる子どもたちと中村浩二教授
= 角間の里山で



放射能・放射線についての授業をする中西孝教授と子どもたち
= 教育学部附属小学校で

・「目で見る放射線・くらしの中の放射線」は、6年生の授業で、アイソトープ総合センター及びアイソトープ理工系実験施設の教職員及び理学部化学科教職員、大学院生、学生等10人が指導した。

附属幼稚園で
「教育研究発表会」

6月2日、教育学部附属幼稚園で、「第46回教育研究発表会」を開催した。

テーマは、昨年に引き続き「友達とかかわり合いながら創る生活 トラブルを通して」で、県内外から幼稚園教諭及び保育所保育母約300人が参加した。



実際指導を参観する参加者
= 教育学部附属幼稚園で



水上事務局長 附属臨海実験所を視察

6月6日、珠洲郡内浦町小木にある理学部附属臨海実験所を視察し、笹山雄一臨海実験所長、田中稔雄理学部事務長から説明を受けた。



船上から附属臨海実験所周辺を視察する(写真左から)田中事務長、明渡志郎企画調査課長、水上事務局長及び笹山所長
= 九十九湾(内浦町小木)で

訃報

6月、現職の方がお亡くなりになりました。ここに御報告するとともに、謹んで御冥福をお祈り申し上げます。



たかはしきよみ
高橋清美 副看護婦長
(医学部附属病院)

6月3日逝去
享年53歳

水上事務局長 「大学改革と総務部の役割について」を講話

6月19日午後5時から約2時間、総務部職員40人に対し講話を行い、大学改革の沿革・背景と諸課題、これを遂行する総務部の役割を強調した。

これは、総務部の本年度第2回目の勉強会として実施されたもの。



総務部職員を前に講話をする水上事務局長
= 事務局会議室で

「心は南極」今から楽しみ 本学・久保栄さん南極越冬隊員に



「金沢大学概要」が完成

「金沢大学概要(平成12年度)」=写真=が完成し、学内外に配布された。なお、同概要は、KUPIS(本学の公式ホームページ)の「金沢大学総合案内」にも掲載されている。



本学技術支援センター技術専門職員の久保栄さん=写真=が、第42次南極観測隊員に選ばれた。久保さんは、本年11月に出発し13年春までの「越冬隊」の一員として、氷や大気などの観測装置の操作、保守点検などの観測活動に参加する。

同人は「選ばれてうれしい。健康に留意して任務に励みたい」と意欲を燃やしている。

本学から、観測隊員として選ばれたのは、井村茂和氏(現東京学芸大学施設部長)に続いて2人目。



= 学長あいさつ =

環境保全センター「20周年記念式典・記念講演会」で(6月16日)

林学長は、歴代センター長への敬意とともに、ゴミや大気汚染などの環境問題に大学の果たす役割について言及し、環境保全センターの重要性を指摘した。

【1頁に本記】



日本学術振興会

研究者養成・国際事業説明会で(6月21日)

林学長は、あいさつで「21世紀に向けて、科学技術立国、教育立国をめざすための大学の果たす役割は大きい。国家財政が厳しい中であって、費用獲得には競争関係が入ってくる。学術振興会の事業にも是非とも進出して欲しい」と述べた。



【4頁に本記】

学術講演会

「21世紀の大学とその社会的責任」で(6月24日)

6月24日、金沢市観光会館で、学術講演会(日本学術会議中部地区会議主催、金沢大学共催)が開催された。

林学長は、あいさつで「私立・公立・国立の大学の中で、いま、国立が大きく変わろうとしているが、知の創成、育成において社会的責務を果たさなければならない」と述べた。

【4頁に本記】



フルブライト・メモリアル基金

アメリカ人教育者訪問団歓迎(6月27日)



林学長は、歓迎のあいさつに続き、現在わが国が英語教育改革の過渡期にあり、より優れた英語教授法の開発や英語教師の育成に力を入れている旨、説明があった。

【6頁に本記】

= 副学長あいさつ =

市民公開講座で(6月11日)
花岡美代次副学長

放射能・放射線は世の中に役に立つと同時に使い方を間違えると大変。市民の一人一人が考えてほしい。



【7頁に本記】

留学生交流研究協議会で(6月15日)

畑安次副学長



我が国の外交政策の現状において、大学等の教育研究期間における留学生交流の意義がますます大きくなりつつある。留学生交流事業をさらに発展・充実したものになければならない。【5頁に本記】

第47回国立大学図書館協議会総会で
(6月28日、29日)

和田敬四郎副学長

図書館の仕事として、古い資料とこれから出てくる新しいものをどういう形でうまく組み合わせてそれらを保存していくか。ハードコピーが非常に大事である一方、IT(インフォメーション・テクノロジー)の面から考えた新しいものを考えていかなければならない。



本学へのお客さま

レーゲンスブルグ大学(ドイツ)



林学長を囲んで記念撮影をする、レーゲンスブルグ大学(ドイツ)クレイメンス・カウフマン教授(写真右から、2人目)とドイツからの留学生カタリーナ・ロッテンアイハさん(写真中央)
=6月26日、学長室で

伝統の「百万石まつり」に連続参加



6月10日(土)、金沢市の一大イベントである「百万石まつり」が催された。

本学は、昨年に引き続き参加し、能登地方に伝わる豪華な夏祭りの「キリコ」3基に、「知の集積 金沢大学」あなたが主役 舞台は金沢大学「留学生との交流を」などのスローガンを書き、職員と留学生で元気に練り歩いた。メインスタンドから林勇二郎学長の激励を受け、37万人の見物者に、金沢大学をPRした。



キャンパス点描

+

— 患者さん憩いの場 —

がん研究所附属病院の庭園

がん研究所附属病院の庭は、今から約10年前に空き地を整備し、患者さんたちの回復に役立つことを願って造られた。

規模はそれほど大きくないが梅、桜、欒(けやき)、桃、りんご、かんのもちの木、つつじ、紫陽花(あじさい)などが植えられ、四季折々の花が咲き誇っている。小鳥のさえずりや虫の鳴き声など、庭は、心のオアシスとなっている。



編集後記

この4月に企画広報室情報公開係に異動となった。係といっても私1人が存在するだけで、とにもかくにもアッという間に3か月が経過した。

広報の業務は、北陸先端科学技術大学院大学にお世話になった際にも経験したが、当大学では、情報提供に関する業務はすべてインターネットで発信しており、初めて経験する私には気の遠くなる業務であった。

私は、当時の編集後記で、「情報は、収集、分類・分

析、判断が大切といわれていますが、情報過多の今日、知り得た情報の発信だけでなく、それはどういった意味を持っているのか、どういった意味を持たせられるのかも考えながら、……。」「(平成8年1月号)と記している(赤面)。

今月号は、環境月間にあわせ、「環境について」をテーマに特集を組んだ。(意味を持たせられたか?)

(総務部企画広報室 井川 俊昭)

平成12年7月21日発行
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町
編集 金沢大学総務部企画広報室

TEL 076-264-6136
FAX 076-234-4015

本紙の内容、その他本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ 愛称「KUPIS」(キュービーズ)」

(アドレス = <http://www.kanazawa-u.ac.jp>) でもご覧いただけます。

本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。